

DRUG



INFORMATION

2012 No. 7

平成24年5月22日発行

コデインリン酸塩水の調剤方法の変更について

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

コデインリン酸塩水の調剤方法の変更について

内用液剤は、内服を容易にするために適宜水を加え、総量に応じて 30mL、60mL、100mL、200mL、300mL、500mL の 6 種類の投薬瓶を使い分けて調剤しています。

麻薬製剤である「**コデインリン酸塩水**」（一般名：コデインリン酸塩）は、これまで当院薬剤部の調剤内規に則り、1 回量を約 30mL（1 日量として約 100mL）となるように希釈し、また、処方日数が 5 日分を超える場合には、最も大きい 500mL の投薬瓶を使用して調剤してきました。

この 500mL の投薬瓶は背が高く、病棟の冷蔵庫内に設置してある麻薬金庫に立てて保管することができないため、投薬瓶を横に倒して保管しなくてはなりません。このたび、投薬瓶を既述したように保管していたところ蓋の部分からコデインリン酸塩水が漏出してしまうという事故が発生しました。

薬剤部では、その対策として 300mL までの投薬瓶であれば冷蔵庫内の麻薬金庫に立てて保管することが可能であることから、以下のようにコデインリン酸塩水の調剤方法を変更することにしました。

- 1) 1 回量が **10mL** になるように希釈する。
- 2) 500mL の投薬瓶は使用せず **300mL までの投薬瓶** を使用する。
- 3) 総量が 300mL を超える場合は**投薬瓶の本数を増やして**調剤する。

これにより、例えば 1 日 4 回 7 日分（全 28 回分）の場合でも $10\text{mL} \times 28 \text{ 回分} = 280\text{mL}$ となり、300mL の投薬瓶 1 本で賄うことが可能になります。



これまで 5 日分を超える場合には、この 500mL の投薬瓶を使用していました。右側の 300mL と比べると蓋 1 つ分高いことが分かります。

運用変更後はこの 300mL の投薬瓶が最大の投薬瓶となります。1 回量は 10mL ですので、黒い線のところまでで 21 回分となります。

なお、コデインリン酸塩は苦味を有する薬剤であり、調剤方法の変更によりこれまでと比較して高濃度になるため、患者からの苦味の訴えが増すと考えられます。その際には下記のように対応していただきますようお願いいたします。

-
- 1) 服用時に1回量を水でさらに希釈する。
 - 2) 1回当たり1mLの単シロップを加える。

〈処方例〉	(麻)コデインリン酸塩水 10mg/mL	6mL
	単シロップ	3mL
	分3(朝, 昼, 夕)食後	6-1 から 7 日分

上記運用は **6月1日**より開始しますので、本件につきまして貴下職員にご周知いただきますよう、よろしくお願いいたします。

不明な点につきましては、麻薬管理責任者・今西（内線 6986）あるいは医薬品情報管理室（内線 7083）までご連絡下さい。